

2018 年卒
Vol.2

1月1日時点の就職意識調査

キャリアス就活 2018 学生モニター調査結果 (2017 年 1 月発行)

就職活動本番を2カ月後に控えた1月1日時点で、2018年卒学生の準備はどの程度進んでいるだろうか。キャリアス就活・学生モニターを対象に、就職意識や準備状況などを尋ねた。前年同期調査との比較や、昨年11月に実施した前回調査からの変化に注目して分析したい。

1. 就職先企業を選ぶ際に重視する点

- 「安定している」が47.6%で最多。学生の安定志向が浮き彫りに
- 「仕事内容が魅力的」は年々低下。4年で半減(37.8%→18.9%)

2. 就職活動準備に関して

- 「自己分析」76.5%、「業界・企業研究」75.5%、「学内のガイダンスに参加」73.7%の順
- 「インターンシップに参加」「就職準備イベントに参加」が年々増加

3. 現時点での志望業界

- 「明確に決まっている」26.5%。11月調査より7.4ポイント増加
- 志望業界1位「銀行」、2位「医薬品・医療関連・化粧品」、3位「水産・食品」

4. エントリーを決めている企業

- 「エントリーを決めている企業がある」85.2%。前年同期調査と同水準
- 具体的な社数は平均10.5社。前年(12.5社)より2社少ない

5. インターンシップ参加状況と参加企業からのアプローチ

- インターンシップ参加者は全体の81.3%。11月調査(76.4%)から4.9ポイント増
- インターンシップ参加後に企業からアプローチを受けた学生は7割強(76.9%)に上る
- 「インターン参加者限定セミナーの案内」60.0%、「限定インターンシップの案内」44.8%

6. 1月1日時点の内定状況

- 「内定を得た」3.6%。前年同期調査(1.1%)より2.5ポイント増
- 内定取得者のうち6割強(60.5%)がインターンシップ参加企業からの内定

7. ベンチャー企業への関心

- ベンチャー企業への就職に関心があるのは、全体の約3割(29.0%)。前年より約4ポイント増加

8. 若者雇用促進法に基づく職場情報提供

- 職場情報提供制度を「知っていた」5.3%。気になるのは「過去3年間の離職者数」

調査概要

調査対象 : 2018年3月に卒業予定の大学3年生(理系は大学院修士課程1年生含む)
回答者数 : 1,203人(文系男子439人、文系女子356人、理系男子268人、理系女子140人)
調査方法 : インターネット調査法
調査期間 : 2017年1月1日~2017年1月6日
サンプリング : キャリタス就活2018学生モニター(2016年卒以前は「日経就職ナビ・就職活動モニター」)

◆本資料に関するお問い合わせ先 : 03-4316-5505/株式会社ディスコ キャリタスリサーチ

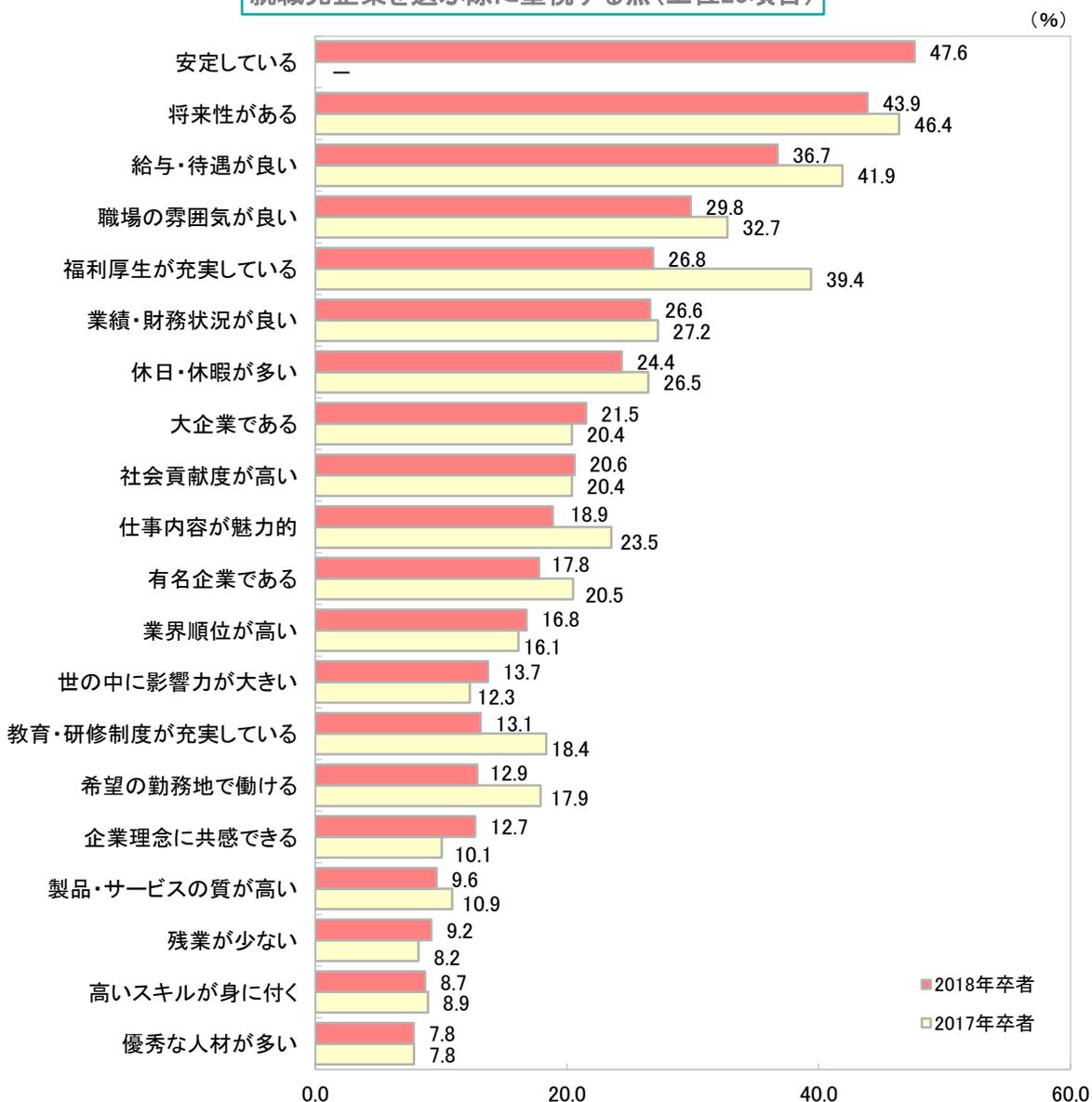
1. 就職先企業を選ぶ際に重視する点

就職先企業を選ぶ際に重視する点を31項目の選択肢の中から5つまで選んでもらった。今年から選択肢に「安定している」を加えたところ、最も多くのポイントを集め(47.6%)、学生の安定志向が浮き彫りとなった。前年調査まで4年連続で1位だった「将来性がある」は、今年は2位だった(43.9%)。次いで「給与・待遇が良い」(36.7%)、「職場の雰囲気が良い」(29.8%)、「福利厚生が充実している」(26.8%)と続くが、いずれも前年調査よりポイントを減らしている。とりわけ「福利厚生」は前年(39.4%)から12.6ポイントも減少しており、今回新設した「安定している」に流れたと見られる。

低賃金で過酷な労働を強いるブラック企業の存在が社会問題化して久しいが、上位項目の顔ぶれを見ると、安心して長く働ける環境を切実に求めている学生が大勢を占めていることがうかがえる。

一方、数年前まで上位項目に連なっていた「仕事内容が魅力的」は年々ポイントが低下。この4年で37.8%から18.9%へと半減し、今年は10位だった。インターンシップに参加する学生が年々増加しているにもかかわらず、選社軸に仕事内容を選ぶ学生が減少の一途というのは、なんとも皮肉なデータと映る。

就職先企業を選ぶ際に重視する点(上位20項目)



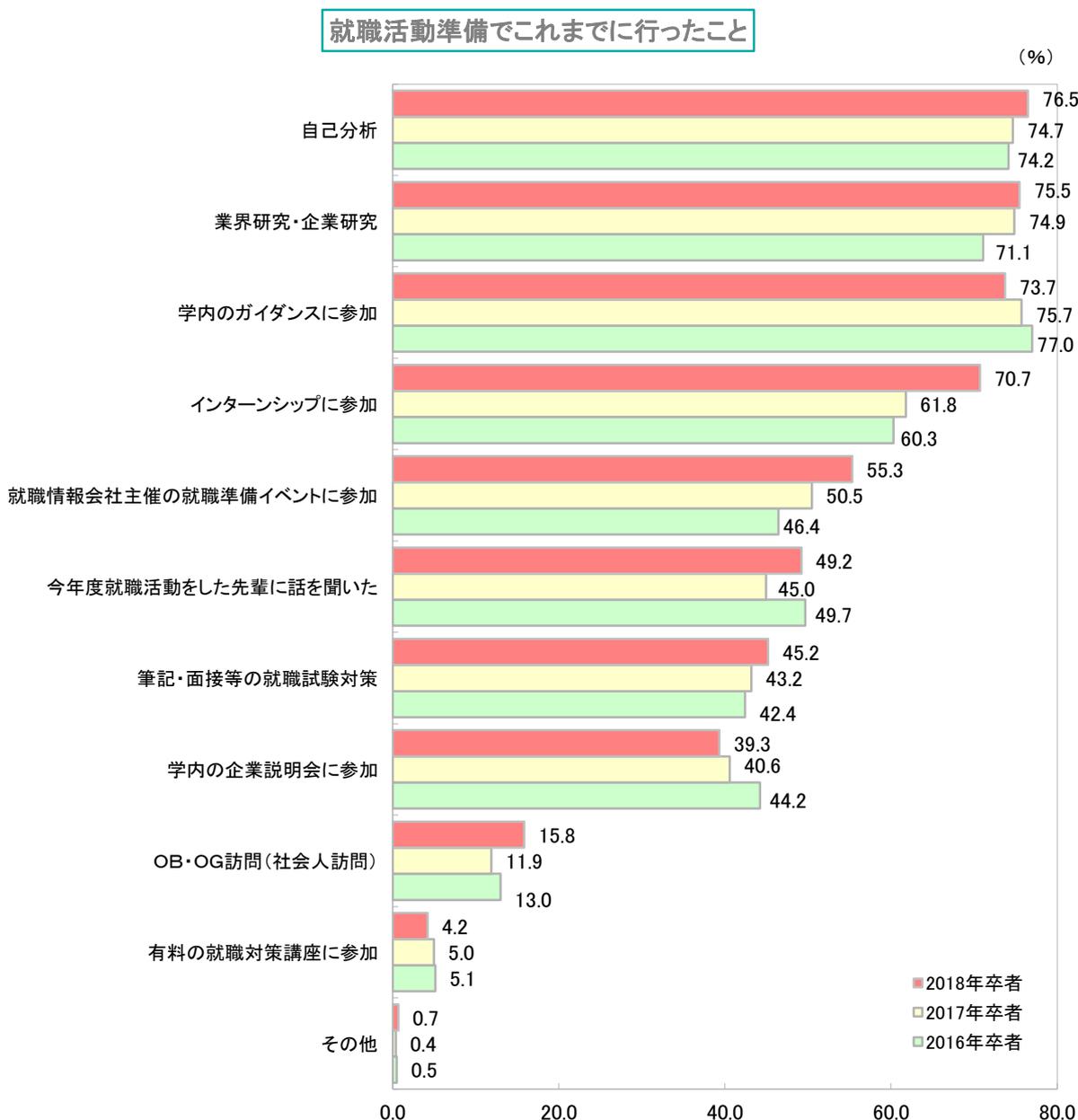
※全31項目から5つまで選択
※「安定している」は、前年調査なし

2. 就職活動準備に関して

1月1日時点で「就職活動の準備を始めた」と回答した学生は全体の99.3%で、11月の前回調査(98.6%)から微増した。

準備として行った内容は、「自己分析」が76.5%で最も多く、僅差で「業界研究・企業研究」(75.5%)が続く。3月の就職活動解禁の前の早い時期に、業界や企業の研究を深め、自分のアピールポイントを固めておこうとの意向が読み取れる。

この3カ年の推移を見てみると、今回3番目に多い「学内ガイダンス」は年々ポイントを下げているのに対し、続く「インターンシップに参加」「就職情報会社主催の就職準備イベントに参加」はともに10ポイント前後、増えている。学生が早くから企業との直接的な接触を望む傾向が強まっており、また実際に接点を持てるようになってきていることがわかる。



3. 現時点の志望業界

1 月 1 日時点での志望業界の決定状況は、「なんとなく決まっている」という学生が最も多く、51.5%。「明確に決まっている」学生は 26.5%で、前回の 11 月調査 (19.1%) より 7.4 ポイント増加した。業界研究が着実に進んでいることがうかがえる。

現時点の志望業界を 40 業界の中から 5 つまで選んでもらったところ、「銀行」(21.0%) が最も多く、次いで、「医薬品・医療関連・化粧品」19.3%、「水産・食品」18.2%の順。「銀行」は前年同期調査でも 1 位だったが、5 ポイント以上減っており (26.4%→21.0%)、とりわけ文系女子においてポイントの減少幅が大きいのが目立つ (34.9%→26.3%)。ただし、志望業界は選考が進んでいく中で変化していくのが毎年の傾向であるので、今後の推移に注目したい。

志望業界の決定状況

(%)

	全体	(11月後半調査)	(前年全体)	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
明確に決まっている	26.5	19.1	27.0	26.9	16.6	38.4	27.9
なんとなく決まっている	51.5	57.2	55.5	48.5	56.2	45.5	60.0
決まっていない	22.0	23.8	17.4	24.6	27.2	16.0	12.1

志望業界 (上位 20 業界)

※5つまで選択 (%)

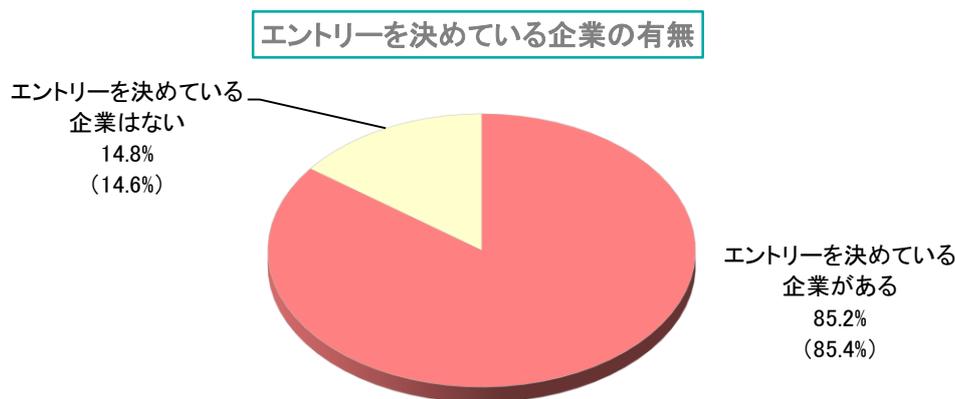
	全体	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
1 銀行 ①	21.0 (26.4)	銀行 33.2 (38.5)	銀行 26.3 (34.9)	電子・電機 25.3 (29.1)	医薬品・医療関連・化粧品 52.8 (49.2)
2 医薬品・医療関連・化粧品 ③	19.3 (18.4)	商社 (総合) 21.5 (24.3)	マスコミ 24.7 (26.4)	素材・化学 23.6 (17.8)	水産・食品 46.3 (43.0)
3 水産・食品 ②	18.2 (21.0)	保険 17.8 (14.2)	官公庁・団体 18.1 (12.8)	医薬品・医療関連・化粧品 22.7 (20.7)	素材・化学 43.1 (37.5)
4 素材・化学 ⑨	17.2 (14.2)	運輸・倉庫 16.9 (21.3)	ホテル・旅行 16.6 (17.1)	自動車・輸送用機器 21.3 (18.8)	官公庁・団体 15.4 (20.3)
5 マスコミ ④	15.4 (16.9)	調査・コンサルタント 16.9 (20.3)	水産・食品 15.8 (18.6)	精密機器・医療用機器 18.2 (10.8)	情報・インターネットサービス 12.2 (10.2)
6 調査・コンサルタント ⑦	15.1 (14.6)	マスコミ 16.9 (18.2)	保険 15.1 (20.2)	水産・食品 17.8 (15.0)	電子・電機 11.4 (9.4)
7 官公庁・団体 ⑤	14.5 (16.0)	官公庁・団体 13.9 (16.6)	商社 (総合) 15.1 (15.9)	エネルギー 17.3 (20.2)	調査・コンサルタント 10.6 (8.6)
8 商社 (総合) ⑥	14.4 (15.5)	情報・インターネットサービス 12.7 (9.8)	調査・コンサルタント 15.1 (11.6)	機械・プラントエンジニアリング 17.3 (14.6)	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト 9.8 (10.2)
9 情報・インターネットサービス	12.7 (11.1)	商社 (専門) 11.8 (14.9)	医薬品・医療関連・化粧品 13.9 (14.0)	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト 16.9 (21.1)	農業・林業・鉱業 8.9 (11.7)
10 電子・電機 ⑩	12.3 (13.2)	証券・投信・投資顧問 11.5 (9.8)	人材紹介・人材派遣 13.1 (8.1)	情報・インターネットサービス 16.9 (19.7)	建設・住宅・不動産 8.9 (8.6)
11 情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト	11.6 (9.8)	建設・住宅・不動産 11.2 (12.5)	建設・住宅・不動産 11.6 (11.6)	調査・コンサルタント 15.1 (14.1)	商社 (専門) 8.9 (2.3)
12 運輸・倉庫 ⑧	11.4 (14.4)	エネルギー 10.9 (12.5)	運輸・倉庫 10.8 (12.4)	建設・住宅・不動産 12.4 (8.5)	精密機器・医療用機器 7.3 (13.3)
	11.4 (12.6)	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト 10.3 (7.4)	教育 10.8 (7.0)	官公庁・団体 10.7 (16.4)	ゴム・ガラス・セメント・セラミックス 7.3 (5.5)
14 建設・住宅・不動産	11.3 (10.7)	水産・食品 10.0 (17.9)	商社 (専門) 10.0 (18.2)	ゴム・ガラス・セメント・セラミックス 10.7 (8.5)	OA機器・家具・スポーツ・玩具他 6.5 (5.5)
15 自動車・輸送用機器	11.2 (11.2)	ホテル・旅行 9.4 (7.8)	素材・化学 9.7 (6.6)	運輸・倉庫 9.3 (13.1)	自動車・輸送用機器 6.5 (4.7)
16 エネルギー	10.7 (12.3)	素材・化学 9.1 (8.1)	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト 9.7 (3.1)	通信関連 8.9 (12.7)	商社 (総合) 6.5 (4.7)
17 精密機器・医療用機器	10.1 (6.9)	自動車・輸送用機器 8.8 (11.1)	情報・インターネットサービス 9.3 (5.8)	マスコミ 8.4 (8.0)	機械・プラントエンジニアリング 6.5 (3.1)
18 商社 (専門)	8.8 (11.2)	医薬品・医療関連・化粧品 8.8 (7.4)	信用金庫・労働金庫・信用組合 8.5 (12.8)	商社 (総合) 7.6 (9.4)	印刷・パッケージ 5.7 (12.5)
19 ホテル・旅行	8.5 (8.6)	精密機器・医療用機器 7.9 (4.1)	OA機器・家具・スポーツ・玩具他 8.1 (6.2)	銀行 7.1 (9.9)	エネルギー 5.7 (9.4)
20 機械・プラントエンジニアリング	8.4 (6.7)	信用金庫・労働金庫・信用組合 7.6 (10.5)	電子・電機 8.1 (4.3)	鉄鋼・非鉄・金属 4.9 (5.6)	その他サービス 5.7 (3.9)

※○の中の数字は前年同調査の全体順位10位以内
※()内は前年同期調査の数値

4. エントリーを決めている企業

就職活動解禁 (3 月 1 日) まであと 2 カ月というタイミングで、どの程度志望企業を定めているのだろうか。現時点でエントリーをしようとしている企業があるかを尋ねたところ、「エントリーを決めている企業がある」と回答したのは全体の 85.2%に上り、前年同様、企業研究がかなり進んでいる様子が分かる。学生の属性による大きな差は見られず、いずれも 8 割を超えている。

一方、具体的にエントリーを決めている企業数は、平均すると 10.5 社。前年同期調査では 12.5 社だったので、2 社ほど少ない。まだ決めかねている (これから広げていく) のか、それとも前年よりも絞り込む傾向が強まっているのかは判断が難しいが、もし後者だとすると、3 月以降の一人あたりのエントリー社数は、激減した前年の学生よりもさらに減少する可能性が高い。



	全体	(前年全体)	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
エントリーを決めている企業がある	85.2%	85.4%	85.6%	87.1%	83.2%	82.9%
エントリーを決めている企業はない	14.8%	14.6%	14.4%	12.9%	16.8%	17.1%
エントリーを決めている企業の社数(平均)	10.5社	12.5社	11.7社	10.2社	9.6社	9.3社

■就職活動に関して思うこと

- 就活解禁前からインターンシップや合同企業説明会を介して人事の方と仲良くなったり、人によっては採用に直結している人もいて、いつから就活が始まっているのだろうと思うことがよくあります。 <理系女子>
- 早く動いた者が必ずしも有利なわけではないが、有利なことが多いことを実感している。 <文系男子>
- 選考が始まる企業もあり、ついに就活が本番を迎えるのだという雰囲気が漂い始めています。 <文系男子>
- 実際に ES を書き始めると、自分をアピールすることの難しさを感じ、就職活動が不安である。 <文系女子>
- 様々な業界を知れば知るほど、自分が何をやりたいのか、どうなりたいのかといったことがわからなくなってしまった。そのため、これからは、自己分析で自分について更に掘り下げる必要があると感じた。 <文系男子>
- 就活解禁までの時期にモチベーションをなくしてしまわないように、スケジュール管理や、自分のメンタルの管理方法を確立することを心がけていこうと思う。 <理系女子>
- いまだに不安は大きいですが、行きたいと思える企業も何社か発見し、少し就活が楽しくなってきた。 <文系女子>
- 冬のインターンシップに参加したことで、よりいっそう業界の研究や本当に自分がやりたい仕事は何かを考えるようになりました。 <理系男子>

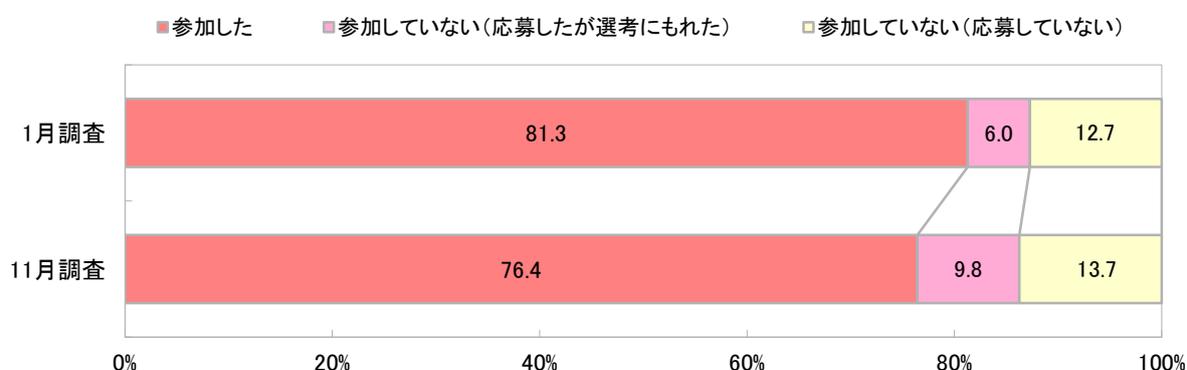
5. インターンシップ参加状況と参加企業からのアプローチ

インターンシップの参加経験や参加したプログラム日数を尋ねた。

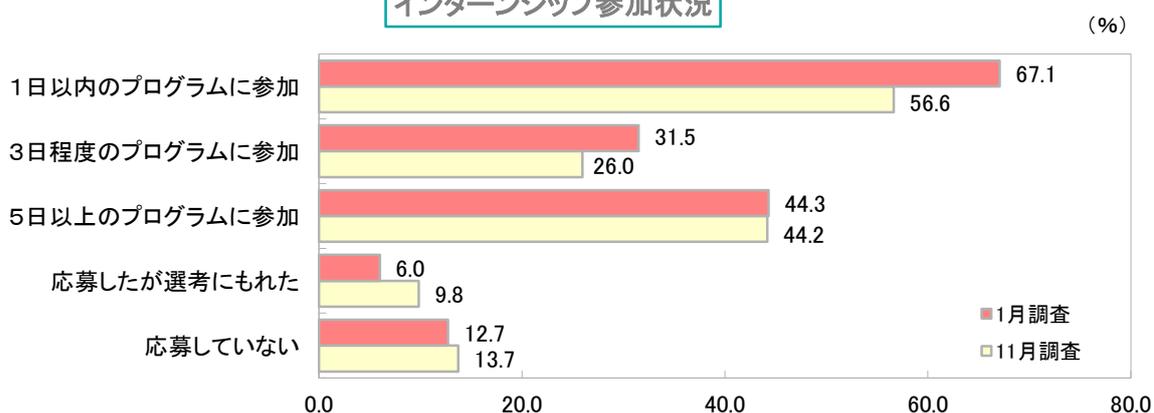
インターンシップに参加経験を持つ学生は 11 月調査 (76.4%) から 4.9 ポイント増加し、8 割を超えた (81.3%)。学生のインターンシップへの関心は、ますます高まっている。

参加期間 (プログラム日数) ごとに参加状況を見ると、「1 日以内」が 6 割強 (67.1%) で最も多く、「5 日以上」は 44.3%、「3 日程度」は 31.5%。11 月調査と比較すると、「1 日以内」と「3 日程度」はそれぞれ 10.5 ポイント、5.5 ポイント増えているが、「5 日以上」は前回調査と同水準。学生が冬場に参加するインターンシップは、期間が短い 1Day や 3 日程度のものが多いことがわかる。なお、平均参加社数を見ると、「1 日以内」は 11 月調査から 0.5 社、「3 日程度」と「5 日以上」はそれぞれ 0.2 社と微増にとどまる。

インターンシップ参加経験



インターンシップ参加状況



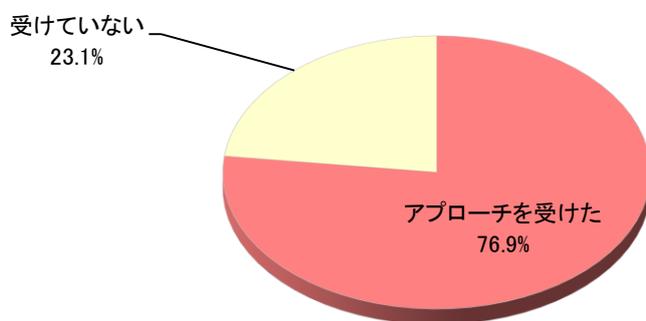
プログラム日数別インターンシップ参加社数

	(社)					
	全体	(11月後半調査)	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
1日以内のプログラム参加社数(平均)	3.1	2.6	3.3	3.3	2.7	2.8
3日程度のプログラム参加社数(平均)	1.6	1.4	1.6	1.6	1.5	1.4
5日以上プログラム参加社数(平均)	1.8	1.6	1.9	1.8	1.6	1.3

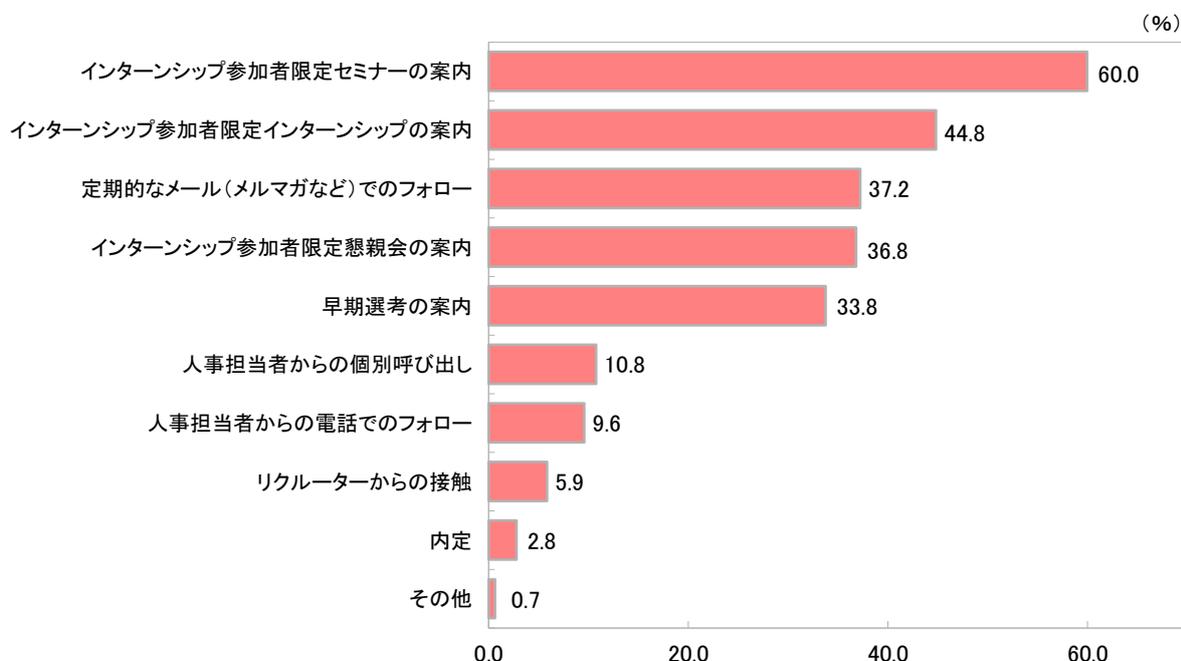
インターンシップに参加経験のある学生 (81.3%) を対象に、インターンシップ参加後に企業からアプローチを受けたか尋ねたところ、「アプローチを受けた」学生は 7 割強 (76.9%) に上った。4 人中 3 人以上は、参加後も企業との関係が続いているようだ。

加えてどのようなアプローチを受けたかを尋ねると、6 割 (60.0%) が「インターンシップ参加者限定セミナーの案内」があったと回答した。2 番目に多かったのは「インターンシップ参加者限定インターンシップの案内」(44.8%)、3 番目は「定期的なメールでのフォロー」(37.2%) と続く。また、「早期選考の案内」を受けたという学生は 3 割を超えた (33.8%)。優秀なインターン参加者を囲い込んで採用につなげようとする企業の思惑がうかがえる。

インターンシップ参加後に企業から受けたアプローチの有無



インターンシップ参加後に企業から受けたアプローチ

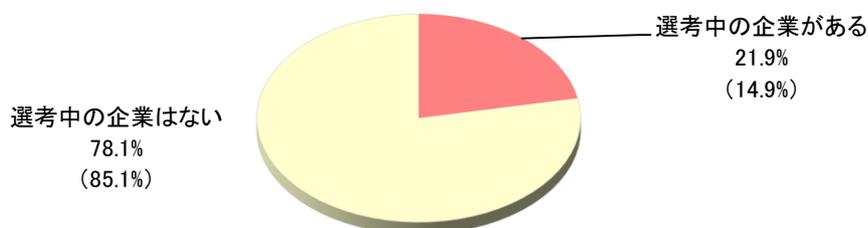


6. 1月1日時点の内定状況

インターンシップの選考を除く、本選考の受験状況を尋ねた。筆記試験や面接など「選考中の企業がある」という学生は2割を超え(21.9%)、前年同期調査(14.9%)より7ポイント高かった。前年よりも早いペースで選考が進んでいることがわかる。なお文理で差が見られ、文系は男女とも2割を超えているのに対し(文系男子23.7%、文系女子26.4%)、理系は1割台にとどまる(理系男子14.9%、理系女子18.6%)。

内定についても尋ねたところ、「内定を得ている」との回答は3.6%で、前年同期調査(1.1%)を上回った。内定取得者のうち、「インターンシップ参加企業から内定を得た」と回答した学生は6割強に上る(60.5%)。インターンシップ参加後に「早期選考の案内」を受けた学生が3割を超えていたことと合わせると(7ページ)、インターンシップ参加学生を優先して選考に進めている企業の水面下の動きが裏付けられる。

1月1日現在の選考中の企業の有無

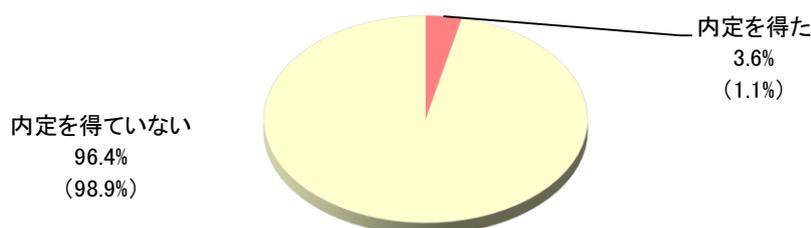


※()内は2016年の同調査での1月現在の数値

	全体	(前年全体)	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
選考中の企業がある	21.9%	14.9%	23.7%	26.4%	14.9%	18.6%
選考中の企業はない	78.1%	85.1%	76.3%	73.6%	85.1%	81.4%
選考企業社数(平均)	1.9社	1.6社	2.1社	1.9社	1.6社	1.8社

1月1日現在の内定状況

*「内定」には、内々定を含む



※()内は2016年の同調査での1月現在の数値

	全体	(前年全体)	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
内定を得た	3.6%	1.1%	4.8%	2.8%	2.2%	4.3%
内定を得ていない	96.4%	98.9%	95.2%	97.2%	97.8%	95.7%
内定社数(平均)	1.2社	1.1社	1.3社	1.2社	1.0社	1.0社

(%)

	全体	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
インターンシップ参加企業から内定を得た*	60.5	61.9	60.0	66.7	50.0
インターンシップ参加企業からは内定を得ていない*	32.6	28.6	40.0	16.7	50.0
インターンシップに参加していない*	7.0	9.5	0.0	16.7	0.0

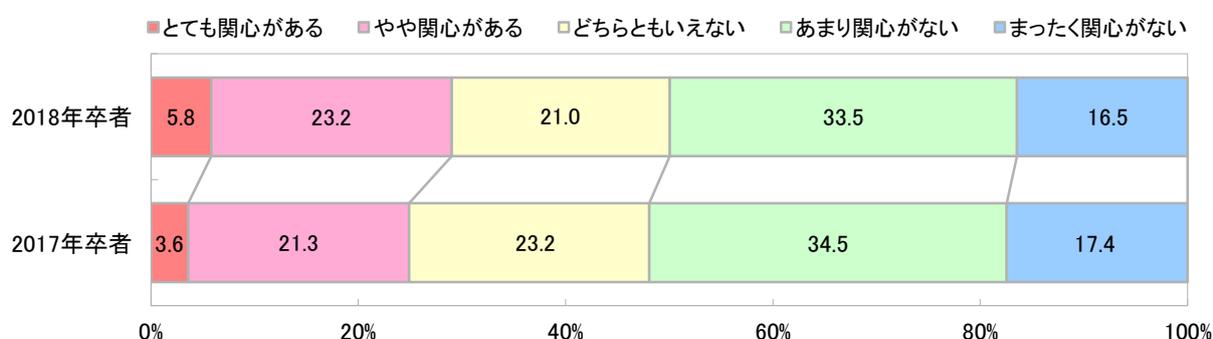
*内定取得者が対象

7. ベンチャー企業への関心

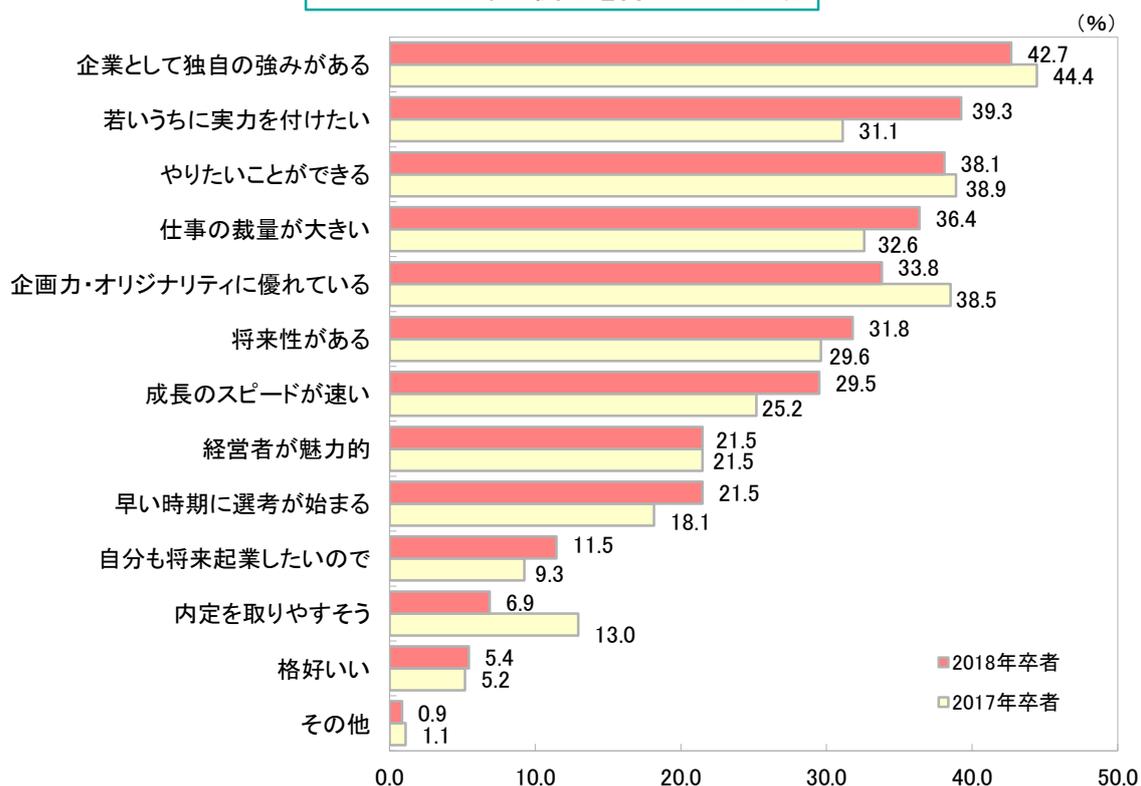
就職先としてのベンチャー企業への関心度合いを尋ねた。「とても関心がある」が 5.8%、「やや関心がある」が 23.2%で、関心がある学生の合計は 3 割近い (29.0%)。就職先企業を選ぶ際には安定性を重視する学生が多い一方で (2 ページ)、ベンチャー企業への就職に関心があると回答した学生は、前年同期調査 (24.9%) と比べると、約 4 ポイント増加した。ただし、学生にベンチャー企業と聞いて思い浮かぶ会社を尋ねると、すでに上場を果たしている、いわゆるメガベンチャーが大半を占める。結局は安定志向の学生が多いということだろう。

また、ベンチャー企業に関心を持っている学生に、その理由を尋ねたところ、「企業として独自の強みがある」(42.7%) が最も多く、「若いうちに実力を付けたい」(39.3%)、「やりたいことができる」(38.1%) と続いた。若いうちから仕事を任せられ、様々な業務を経験して早く実力をつけたいと考えている学生にとって、ベンチャー企業は魅力的に映るようだ。

ベンチャー企業への就職関心度



ベンチャー企業に関心を持っている理由

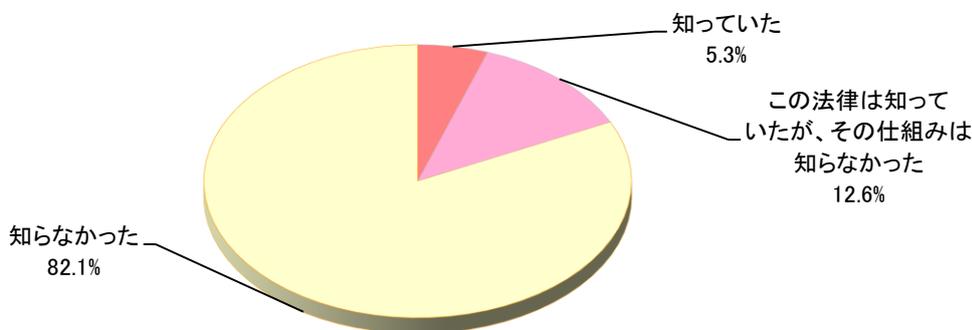


8. 若者雇用促進法に基づく職場情報提供

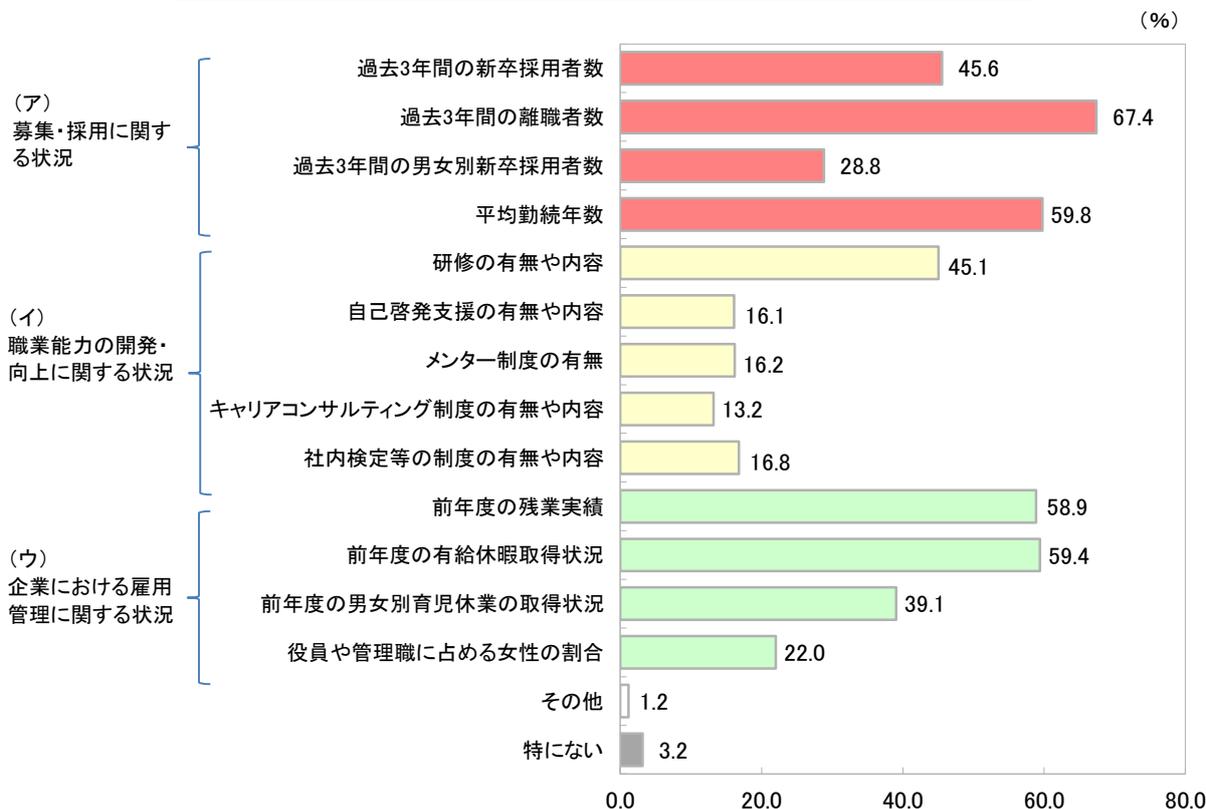
昨年 3 月に「若者雇用促進法」が施行され、企業は就活生からの要請があれば勤労実態等の職場情報を提供することが義務付けられた。この仕組みの認知状況を尋ねてみたところ、「知っていた」と回答したのは 5.3%にとどまり、「法律は知っていたが、その仕組みは知らなかった」が 12.6%。残りの 8 割超 (82.1%) は、法律自体を知らず、学生の認知度はかなり低いことがわかった。

認知状況にかかわらず企業の職場情報として気になるものをすべて選んでもらったところ、「(ア) 募集・採用に関する状況」と「(ウ) 企業における雇用管理に関する状況」に属する項目のポイントが高かった。とりわけ「過去 3 年間の離職者数」67.4%、「平均勤続年数」59.8%、「前年度の有給取得状況」59.4%、「前年度の残業実績」58.9%の 4 項目は半数を超え、多くの学生が気にしている様子がわかる。2 ページで紹介した、安心して長く働ける環境を求める姿勢とも一致する。

若者雇用促進法に基づく職場情報の提供制度の認知状況



若者雇用促進法に基づいて提供される職場情報のうち気になるもの



※(ア)(イ)(ウ)の各分類は厚生労働省「若者雇用促進法のあらまし」より